

# 環境経営レポート

(2019年度)



おいしいは、やさしい。

わたしたちは、いちばん大切なひとに笑顔をお届けするため、  
人にやさしい・地球にやさしい、食品づくりを目指します。

2020年9月1日

(2019年4月～2020年3月)



株式会社 **みすず** コーポレーション

# 目次

1. 会社概要
2. 環境経営方針
3. エコアクション21推進体制
4. 環境経営目標と実績
5. 次年度環境経営目標
6. 主要な環境経営計画及び環境活動と結果の評価
7. 次年度環境経営計画
8. 適用法令の遵守状況
9. 経営者コメント

## 1. 会社概要



- 事業者名及び  
代表者名 株式会社みすずコーポレーション  
代表取締役社長 塚田裕一
- 所在地 本社・本社工場：  
〒380-0928 長野市大字若里1606番地  
電話:026-226-1671(代表)  
更北工場：  
〒381-2212 長野市小島田町字中村北沖2122-1  
電話:026-284-5165  
山梨工場  
〒406-0854 山梨県笛吹市境川町寺尾526-1  
電話:055-266-5161
- 対象事業所 本社・本社工場、更北工場、  
東京支店、名古屋支店、大阪支店、札幌営業所、仙台営業所、  
岡山営業所、広島営業所、四国営業所、福岡営業所、  
山梨工場については2020年度拡大予定
- 管理責任者氏名  
担当者連絡先 環境管理責任者：設備統括本部 取締役統括本部長 牧 茂  
担当者：リサイクル管理部 次長 宮尾幸彦  
連絡先： 電話 026-226-1671  
Fax 026-223-2271
- 事業内容 凍り豆腐、油揚げ及び味付け油揚げ等の研究開発、製造及び販売  
再生可能エネルギーによる発電及び電気の販売
- 総売上高 16,663 百万円(2020年3月)
- 従業員数 906 名(2020年3月)
- 工場の規模 工場延べ床面積:40,240m<sup>2</sup>(2020年3月)  
敷地面積:61,560m<sup>2</sup>(2020年3月)

## 2. 環境経営方針

### みすずコーポレーション環境経営方針

光や水、空気、そして食物を生み出す豊かな天地、自然は私たちの生命を育むかけがえのないめぐみです。当社は、この自然の恩恵に心から感謝し、この自然のめぐみを生かすことに心を配りながら「おいしいはやさしい」のキャッチフレーズの下、事業活動を進めてまいりました。当社は、「健康」と「環境」というかけがえのない宝に寄与する企業としての、又、豊かな日本の食文化を継承する企業としてのプロの誇りと責任を持って、環境保全活動に積極的に取り組み、資源循環型企業を目指すにあたって、次のことを約束します。

1. 当社の事業及び製品が、環境に与える影響を認識し、積極的に環境負荷の低減に取り組みます。
2. 社内に環境マネジメントシステムを構築し、システムの継続的な改善を図ります。
3. 食品リサイクルを推進します。
4. 省エネ活動でエネルギーの有効活用を図ります。
5. 省資源活動で環境資源の保全を図ります。
6. 化学物質を適正に管理します。
7. グリーン購入を推進します。
8. 環境関連法令や条例を遵守します。
9. 環境教育と地域貢献活動を推進します。

この環境方針は、全従業員に周知するとともに、社外へも公表します。

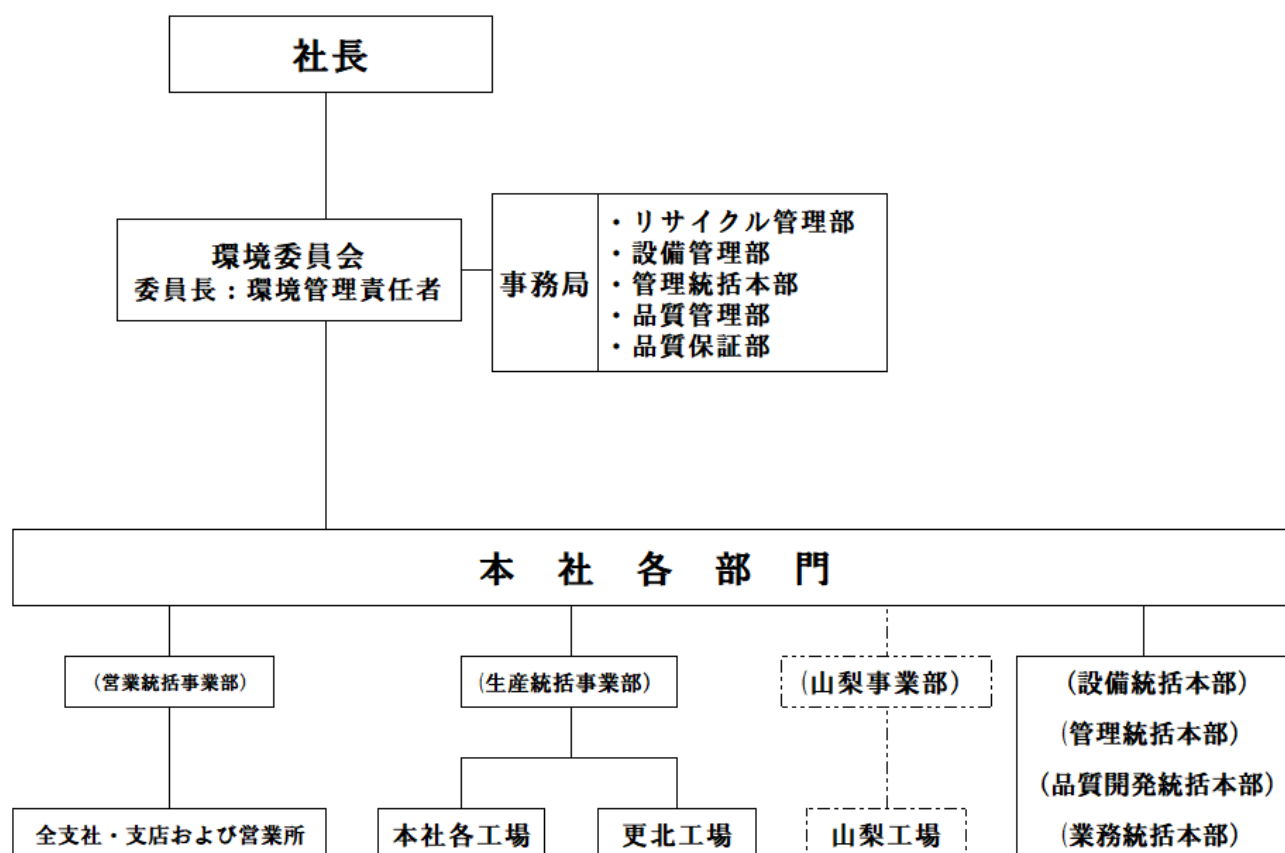
2020年 3月 14日

株式会社 みすずコーポレーション

代表取締役社長

塚 田 裕 一

### 3. エコアクション 21 推進体制



※山梨工場は 2020 年度拡大予定

### 4. 環境経営目標と実績

#### ■中期(2018年度～2020年度)環境経営目標

1. 食品廃棄物の排出量は2020年度には排出量の原単位で2017年度比3%削減した量を目標とする。食品リサイクル率は2017年度実績を維持する。
2. 使用エネルギーを2020年度には、エネルギー原単位で2017年度比3%削減し、CO2 排出量はCO2 排出量原単位で2017年度比3%減少させる。
3. 水の排水量については、全社的な水削減活動を展開し、2020年度には原単位で2017年度比3%削減する。可燃ごみ・廃プラの廃棄量は、工場は2020年度には廃棄量の原単位で2017年度比3%削減した量を目標とする。直管部門は毎年、廃棄量を1%削減する。
4. 化学物質使用量は既定量を遵守し、適正な管理を行う。
5. グリーン購入を推進する。購入時に必要性を考え、環境負荷が出来るだけ少ないものを選ぶ。
6. 環境活動レポートには当社の資源循環型企業としての考え方や行動を記載し、営業活動等においても企業姿勢を明確にする。
7. コンプライアンスの体制を維持する。

## ■2019年度環境経営目標

年度経営目標及び計画は次のとおりとする。

1. 食品廃棄物の排出量を2019年度には、2018年度の原単位比 1%削減し、食品リサイクル率は2018年度実績を維持する。
2. 使用エネルギーを2019年度には、エネルギー原単位で2018年度比 1%削減し、CO<sub>2</sub> 排出量を、CO<sub>2</sub> 排出量原単位で2018年度比 1%減少させる。
3. 水の排水量については、全社的な水削減活動を展開し、原単位で2018年度比 1%削減する。可燃ごみ・廃プラの廃棄量は、工場は2018年度の原単位比 1%、直管部門は廃棄量 1%をそれぞれ削減する。
4. 化学物質使用量は既定量を遵守し、適正な管理を行う。
5. グリーン購入を推進する。購入時に必要性を考え、環境負荷が出来るだけ少ないものを選ぶ。
6. 環境活動レポートには当社の資源循環型企業としての考え方や行動を記載し、営業活動等においても企業姿勢を明確にする。
7. コンプライアンスの体制を維持する。

## ■2019年度環境経営目標と実績

○=達成 △=未達

2019年度 全社環境経営目標		2019年度実績		評価	
1	食品廃棄物 排出量	2018年度の原単位比 1%削減	原単位売上	原単位で 1.23t/百万円(2018年度 1.19t/百万円) と 3.4%増加 食品廃棄物発生量:20,479t ※1	△
			原単位生産量	原単位で 15.95t/百万枚(2018年度 15.09t/百万枚)と 5.7%増加 食品廃棄物発生量:20,479t	△
	食品リサイクル率	2018年度実績の維持	食品廃棄物の再生利用実施率は 97.7%	○	
2	使用エネルギー量	2018年度原単位比 1%削減	原単位売上	エネルギー原単位で 43,274.7MJ/百万円(2018年度 44,996.0MJ/百万円)と 3.8%減少 使用エネルギー量:719,052,409MJ ※2	○
			原単位生産量	エネルギー原単位で 14.47 Kl/百万枚(2018年度 14.76Kl/百万枚)と 2.0%減少 使用エネルギー量:18,551.6Kl(原油換算 Kl) ※2	○
	CO <sub>2</sub> 排出量	2018年度原単位比 1%削減	原単位売上	二酸化炭素原単位で 2,141.9kg-CO <sub>2</sub> /百万円(2018年度 2,273.2kg-CO <sub>2</sub> /百万円)と 5.8%減少 CO <sub>2</sub> 排出量:35,590,530kg-CO <sub>2</sub> ※2	○
原単位生産量			二酸化炭素原単位で 27,715.7kg-CO <sub>2</sub> /百万枚(2018年度 28,899.0kg-CO <sub>2</sub> /百万枚)と 4.1%減少 CO <sub>2</sub> 排出量:35,590,530kg-CO <sub>2</sub> ※2	○	

3	水の揚水量	原単位で2018年度比1%削減	原単位売上	揚水量: 4,122,299m <sup>3</sup> /年 原単位で 248.1m <sup>3</sup> /百万円 (2018年度 236.2m <sup>3</sup> /百万円)と 5.0%増加	△
			原単位生産量	揚水量: 4,122,299m <sup>3</sup> /年 原単位で 3210.2m <sup>3</sup> /百万枚 (2018年度 3,002.9m <sup>3</sup> /百万円枚)と 6.9%増加	△
4	可燃ゴミ・廃プラの廃棄量	工場部門:2018年度原単位比1%削減 直管部門:2018年度廃棄量1%削減	原単位売上	全社:原単位で 0.0177t/百万円 (2018年度 0.0178t/百万円)と 0.6%減少 可燃ゴミ・廃プラ量:284.89t ※3	△
			原単位生産量	全社:原単位で 0.222t/百万枚 (2018年度 0.227t/百万枚)と 2.27%減少 可燃ゴミ・廃プラ量:284.89t	○
5	営業部門における当社の環境への取り組み、資源循環型企業の考え方の明確化		各支店において商談の際に環境活動レポートを使用してお客様に当社の環境への取り組みを説明することが日常的に実践されるようになった。また、お取引先の工場見学時にもレポートを配付しています。		○
6	グリーン購入を推進する。		購入する以前に必要性、耐久性、ごみの発生が少ない商品を選ぶと共に、価格とも対比して購入商品を選択する。継続的に実施しています。		△
7	コンプライアンスの体制整備		緊急事態発生時に管理者への報告や安否確認が出来る緊急連絡網の仕組みを構築して運用しています。緊急事態発生時には危機管理委員会を開催、週次の経営会議で状況を報告し情報を共有しています。		○

※1環境負荷とりまとめ表の食品廃棄物発生量を売り上げ高で割った数値を原単位としました

原単位生産量計算式

※2全社数値にて算出しました

原単位量 : 2017年度 1,238.716 百万枚

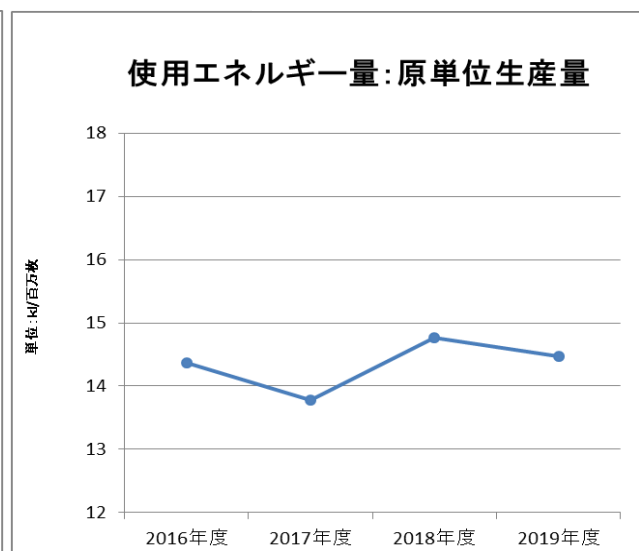
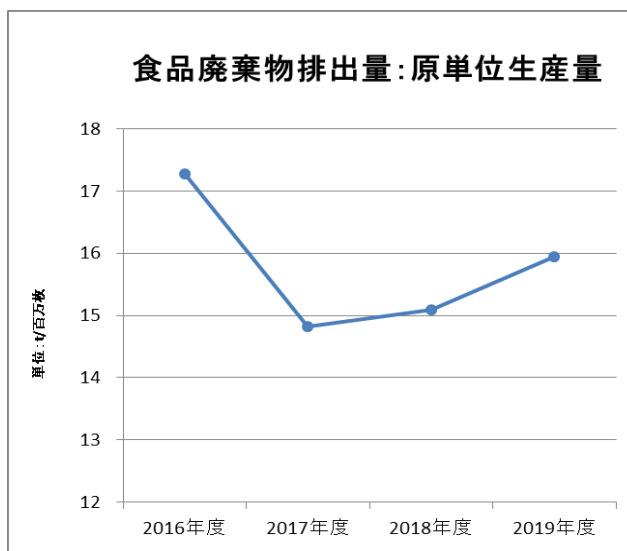
(2019年度各電力株式会社の調整後の実排出係数(環境省資料より))

: 2018年度 1,263.986 百万枚

※3一般廃棄物+廃プラ排出量を売り上げ高で割った数値を原単位としました

: 2019年度 1,284.13 百万枚

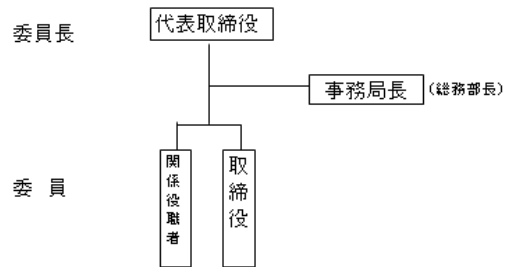
計算式 : 発生量(t) ÷ 原単位量(百万枚)



## 【環境管理責任者コメント】

- ・全部門で環境経営目標が達成出来るよう環境活動に積極的に参加し、毎日の業務に取り組みました。
- ・食品廃棄物は生産量の増加に伴い増加しました。また、原単位生産量も5.7%増加しました。今後、MPS活動の継続により、更なる削減が必要と考えます。
- ・食品廃棄物の再生利用率は前年96.7%に対し、97.7%で推移しました。
- ・生産量の増加と各種省エネ対策の効果により原単位生産量も5.8%減少しました。今後は夏季の気温上昇による空調の増設と冷凍機負荷負担が増加するため、さらなる対策を検討していきます。  
また、生産に寄与しないベースエネルギーの把握と削減対策の立案・実施を行い、原単位削減に繋げていきたいと考えております。
- ・二酸化炭素の原単位排出量は4.1%減少しました。要因は使用エネルギーと同様です。引き続き蒸気と電気エネルギーを中心とした省エネ活動で排出量削減を推進していきます。
- ・揚水量について原単位生産量で6.9%増加しました。生産量増加に伴い、使用量も増加しましたが、夏場の冷凍機負荷を低減させるための散水を行ったことが大きな要因です。  
大切な地球の資源ととらえ今後も継続的な節水や漏水対策を実施し、更なる削減が必要と考えます。
- ・可燃、廃プラの原単位生産量は2.27%減少しました。引き続き削減活動を進めるとともに、リサイクル化を推進していきます。
- ・コンプライアンス体制については、緊急連絡網システムを継続運用し、緊急避難訓練を行う場合には連絡網を使用して操作方法を確認しています。

危機管理委員会の組織



## 5. 次年度環境経営目標

### ■2020年度環境経営目標

年度経営目標は次のとおりとする。

1. 食品廃棄物の排出量を2020年度には、2019年度の原単位比1%削減し、食品リサイクル率は2017年度実績を維持する。
2. 使用エネルギーを2020年度には、エネルギー原単位で2019年度比1%削減し、CO2排出量を、CO2排出量原単位で2019年度比1%減少させる。
3. 水の排水量については、全社的な水削減活動を展開し、原単位で2019年度比1%削減する。可燃ごみ・廃プラの廃棄量は、工場は2019年度の原単位比1%、直管部門は廃棄量1%をそれぞれ削減する。
4. 化学物質使用量は既定量を遵守し、適正な管理を行う。
5. グリーン購入を推進する。購入時に必要性を考え、環境負荷が出来るだけ少ないものを選ぶ。
6. 環境活動レポートには当社の資源循環型企業としての考え方や行動を記載し、営業活動等においても企業姿勢を明確にする。
7. コンプライアンスの体制を維持する。



## 6. 主要な環境経営計画及び環境活動と結果の評価

### 2019 年度環境経営計画

#### ①環境教育

年 1 回は環境教育を実施し、社員の環境への意識を高める。

#### ②食品廃棄物のロス削減及びリサイクルの推進

MPS活動(小集団活動)でロス削減目標をテーマとし、改善活動に取り組む。

#### ③緊急事態対応訓練の実施

緊急事態を想定した各種の教育・訓練を実施する。(年 1 回以上)

#### ④省エネルギー対策

燃料(都市ガス)・電気を中心とした、省エネルギー活動を実施する。

各省エネ事例の収集と補助金活用の検討。

#### ⑤環境コミュニケーション及び社会貢献

環境強化月間を設定し、工場周辺清掃活動や周辺河川清掃を実施する。

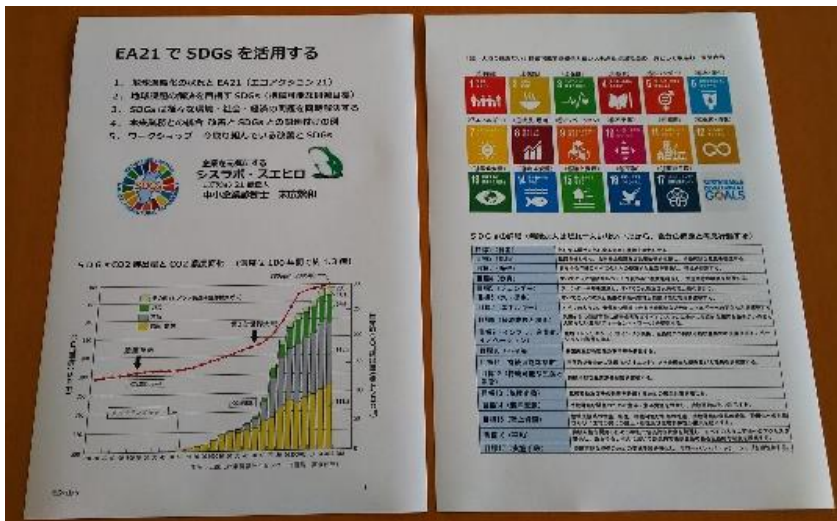
環境活動により、地域貢献活動を推進する。

### 環境活動と結果の評価

#### ①環境教育

##### ■エコアクション 21 教育(2020 年 2 月 28 日)

「エコアクション21でSDGsを活用する」というテーマで勉強会を開催いたしました。



## ②食品廃棄物のロス削減及びリサイクルの推進

### 【食品廃棄物のロス削減】

#### 第5回・第6回 MPS活動(小集団活動)活動報告

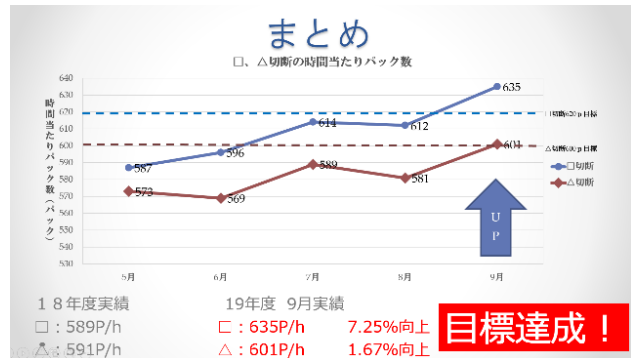
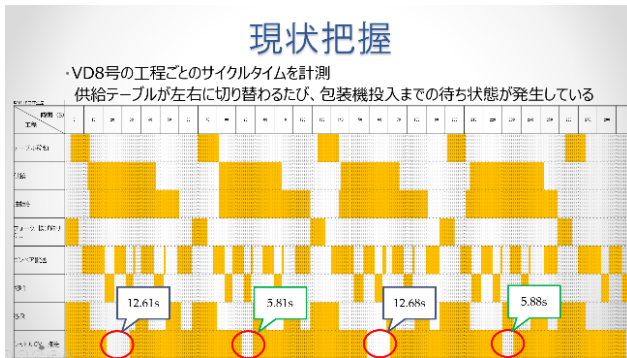
MPS 改善活動も3年目となり、今年度はリーダーやサークルメンバー教育の一つとして、TPS 検定の4級合格者が3級へ挑戦しました。また、第6回の改善活動では社員一丸となりロス削減目標をテーマとした改善活動に取り組みました。

2019年度に実施した改善活動で、優秀な成績をおさめたサークルの活動内容を紹介します。

#### 第5回 MPS活動

金賞:北工場加工第2 北二郎 「VD8号生産稼働率の工場(時間当たりパック数5%向上)」

生産予定に対し、生産能力が下回っている状況があり改善を実施しました。現状調査として、生産ラインのサイクルタイムを計測し、工程ごとに待機時間が発生していることが分かりました。コンベアの加減速度調整等の設備改善により待機時間を短縮することができました。時間あたり生産パック数について目標数値を達成し、年間効果金額1,047,816円の見込みとなりました。



#### 第6回 MPS活動

金賞:北工場油揚第2 ファイヤースoulサークル 「揚げロス5%削減」

揚げロス要因上位3つ(揚げり過ぎ、チェック時、2枚揚げ)について発生原因を調査し、対策を実施しました。生産スタート時の種生地寄せ作業を標準化(規定量貯めるなど)させて作業によるバラツキをなくすことで、揚げり過ぎロスを削減できました。その結果、前年と比べ揚げロス31%減、354,991円の削減となりました。

1-1 対策実施:揚げり過ぎ  
スタート種生地寄せ作業手順

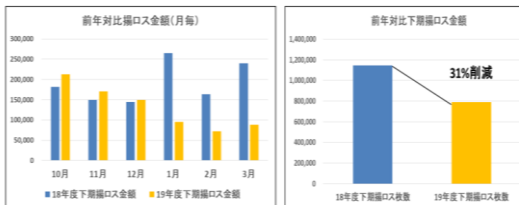


①せき止め板セット

②分配スタート

③規定位置まで凝固物を溜める  
せき止め板印40mmまで溜める

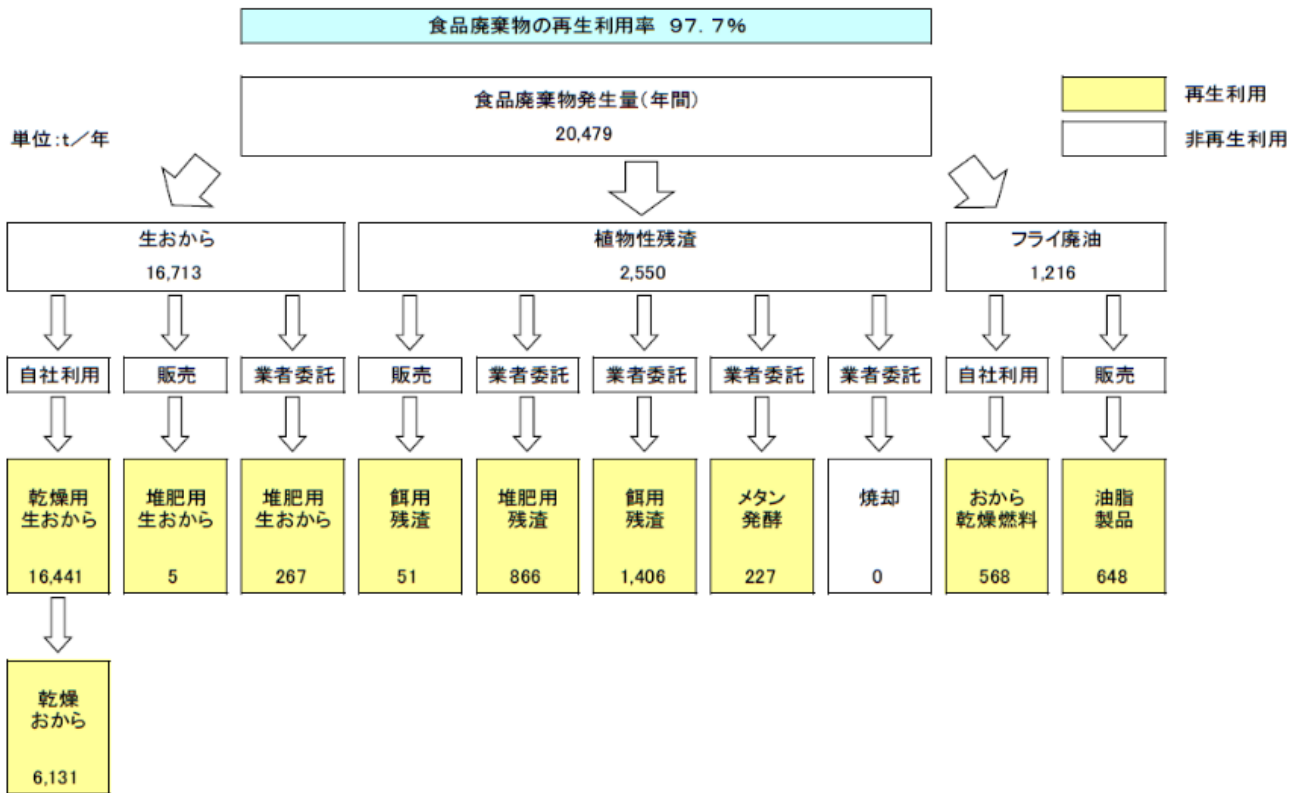
効果確認 19年下期揚げロス金額



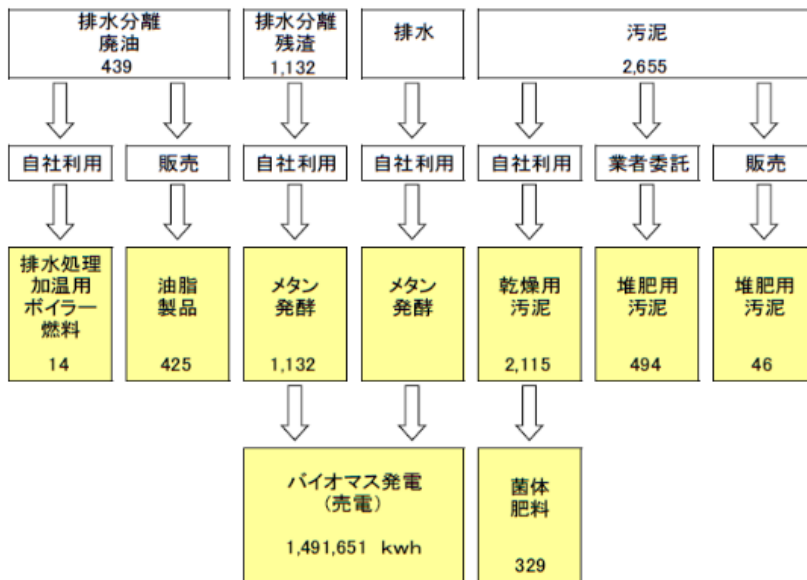
	対策実施→						
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18年度下期揚げロス金額	181,304	149,080	144,796	265,226	164,067	240,236	1,144,709
19年度下期揚げロス金額	213,206	170,596	149,504	95,191	72,490	88,731	789,718
削減率%	18%	14%	3%	-64%	-56%	-63%	-31%
削減金額	31,902	21,516	4,708	-170,035	-91,577	-151,505	-354,991

改善例:スタート種生地寄せ作業手順の標準化

## 【廃棄物のリサイクルの推進】



### その他廃棄物



## 【廃油のリサイクルの推進(山梨工場)】

新たに 20t廃油タンクを設置し、フライ油を高単価販売できるように実施しました。元の廃油タンクでは容量が少なく小口販売であった為、また、廃油タンクの老朽化が進んでいた為に更新しました。

新たな廃油タンクは法令順守を徹底した仕様となっています。

※廃油は最終的に石鹼会社もしくは薬品会社で再利用されます。



## ③緊急事態対応訓練

緊急事態を想定した各種訓練を実施しました。

### ■AED講習会



### ■油流出時対応訓練



### ■停電、排水処理異常対応訓練



#### ④省エネルギー対策

電気・ガスの使用量は前年対比 99.4%でした。各職場における継続した省エネ対策の結果と捉えています。原単位生産量においても前年対比 98%となっております。

設備の省エネルギー化①(継続実施中)  
油揚フライヤーの断熱強化。放熱ロス 90%削減。



設備の省エネルギー化②(2020年1月)  
蒸気ボイラー更新(No.1~4)。効率2%向上。



設備の省エネルギー化③(2019年12月)  
加熱用蒸気コイルの洗浄を実施。効率改善を図った。



設備の省エネルギー化④(2019年7月)  
老朽化に伴い空調機を更新した。設備容量 25%低減。



設備の省エネルギー化⑤(2019年6月)  
エアークOMPRESSORの圧力設定を変更した。  
(過去に実施したが、再度見直しを実施)



設備の省エネルギー化⑥(2019年6月)  
空調・冷凍機の室外機洗浄を行い、効率改善を実施



⑤環境コミュニケーション及び社会貢献

■環境強化月間(2019年6月、9月)

環境強化運動実施内容

No.	運 動	実施日	活 動 内 容
1	工場周辺河川清掃	5月30日 11月29日	工場周辺河川の清掃を実施
2	工場周辺および敷地内清掃	5月28日 9月3日	工場外周りの空き缶・ごみ拾い草取り等の清掃活動 敷地内草取り・排水路掃除
3	特定敷地内草取り	6月28日 9月20日	アークス井戸周辺草取り
4	社内駐車場	6月17日～21日 9月9日～20日	各自駐車場の草取り
5	ノーマイカー通勤	9月17日～30日	マイカー以外での通勤の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ通勤距離 426km</li> <li>・削減した燃料使用量 36.72ℓ</li> <li>・削減した二酸化炭素使用料 85.2kg-CO<sub>2</sub></li> </ul>



## 【社会貢献】

2020年2月に災害時非常用発電機を設置しました。

近年、台風や地震などの自然災害が激化し、長時間停電することが増加しています。事業資産の損害を最小限にとどめつつ、事業の継続と早期復旧を可能とするための計画(BCP)の一部として、災害に強いLPガス非常用発電機を設置することとしました。

非常用発電機の設置に伴い、弊社、長野市、芹田地区住民自治協議会との協議の上、災害時一時避難場所として防災協定を締結しました。災害の際、周辺地域住民への一時避難場所として本社施設を提供いたします。



防災協定調印式



LPガス非常用発電機

## 7. 次年度の環境経営計画

### ①環境教育

年1回は環境教育を実施し、社員の環境への意識を高める。

### ②食品廃棄物のロス削減及びリサイクルの推進

MPS活動(小集団活動)でロス削減目標をテーマとし、改善活動に取り組む。

### ③緊急事態対応訓練の実施

緊急事態を想定した各種の教育・訓練を実施する。(年1回以上)

### ④省エネルギー対策

燃料(都市ガス)・電気を中心とした、省エネルギー活動を実施する。

各省エネ事例の収集と補助金活用の検討。

### ⑤環境コミュニケーション及び社会貢献

環境強化月間を設定し、工場周辺清掃活動や周辺河川清掃を実施する。

環境活動により、地域貢献活動を推進する。

## 8. 適用法令の遵守状況 (2019年度)

法規制等の名称	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物管理票(マニフェスト)及び多量排出事業者の定期報告 長野市環境部 廃棄物対策課への提出(6月実施)
食品リサイクル法	関東農政局へ報告書提出(6月実施)
省エネ法	関東経済産業局・関東農政局への報告書提出(7月実施)
地球温暖化対策法	長野県環境部への報告書提出(7月実施)
騒音規制法	特定施設の新設なし
水質汚濁防止法	排水処理の排出基準において超過なし 特定施設設置届出(3月実施 大町)
浄化槽法	年1回法定検査(本社4月、更北2月実施) 保守点検 1回/2ヶ月
市公害防止条例	水量の定期報告(4月実施)
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の新設無し ばい煙量等の測定実施
フロン排出抑制法	フロン機器の簡易点検4回/年、定期点検1回/年の実施 フロン機器の廃棄時の、フロンガス回収に対しての遵守

遵守状況確認日 2020年3月31日

■上記の他、環境関連法令を遵守した活動を行っており、訴訟等もありませんでした。

前年度ご指摘のありました、油あげ工場においては、排気ダクトの清掃を定期的にも実施し、油臭対策に努めております。



## 9. 経営者コメント

新型コロナウイルス感染拡大による過去に類を見ない影響が続いている中で、2019年度売上高では、凍り豆腐部門は対前年横這い、油揚・加工部門では、対前年比 5.8%増と全体で対前年比 3.5%増となりました。

生産設備では老朽化の進んでいる凍り豆腐工場の設備更新を積極的に進めながら、1/2 カット商品の合理化設備を導入しました。また、原料大豆と同量発生する生オカラについては全量を乾燥して有効利用していますが、食品用オカラとしての新商品開発を更に進め拡販していく方針から、新たに食品用オカラ乾燥機を増設し、自動計量・ロータリー包装機等の設備化を進め、現在は粉末食品工場として生産稼働しております。

環境面では、コスト削減委員会とMPS改善活動により5Sの推進と食品ロスを含めたあらゆるムダの排除を継続して取り組み、今後は労災事故ゼロに向けた安全活動と労働環境の整備にも積極的に取り組んでいきます。

エネルギー使用量については、生産量は増加しましたが、総エネルギー量は減少(0.6%減)し、原単位生産量も2.0%減少しました。次年度に向け全社員による省エネ活動を強化し、原単位削減に取り組みたいと考えます。また、エネルギー単価が上昇している中、省エネ機器等の導入と既設設備の点検と改善を積極的に進めて参ります。

資源循環型生産の取組みである「おからの全量乾燥」、「余剰汚泥の菌体肥料化」、「バイオマス発電」等も順調に稼働し、環境への影響も最小限に抑制する事が出来ました。

外部コミュニケーションに伴いましては、異臭、騒音等の対策を施し工場周辺における住環境の向上に努めて参ります。





2020 年秋発売の新商品



株式会社 **みすずコーポレーション**